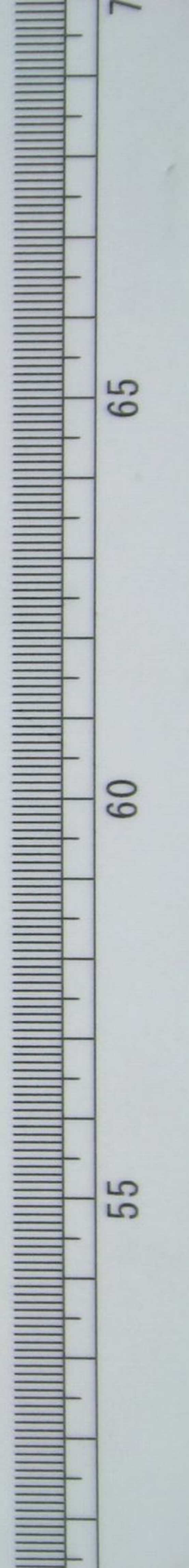


鹿兒島爭日記  
後編  
二號  
辻文板  
永嶋福太郎編輯





A 429  
12



肥後  
人吉城  
賊徒屯集

肥後人吉

010190510196

48-7888



官軍の探偵者見らるゝ肥後地のまは  
 竹の橋をこりて天神がせと  
 通るとた谷山の婦人三人  
 魚をいれたる同所  
 きりりと賊徒ら  
 矢庭ふ右のうち  
 二人をわたり  
 一人のちをせむ  
 さぬ賊ちへつと  
 ゆけり夫より谷  
 山内五ヶとらふ所へいりし  
 まさくふ人と三人  
 をし連やたたり



この日  
 本と  
 初た  
 松ふ  
 とた  
 川の  
 の病  
 院ふ  
 のり  
 倉松と



あふん  
 の夫  
 官軍  
 ドラドセー  
 由んがくのどくの野がら  
 みせーのふんまら  
 とらふべきありの

り少年の  
 人品よく  
 育一の  
 とてとん  
 元ふらう  
 てあひあう  
 倉松の  
 十二年と  
 九月の  
 こどもあ  
 二

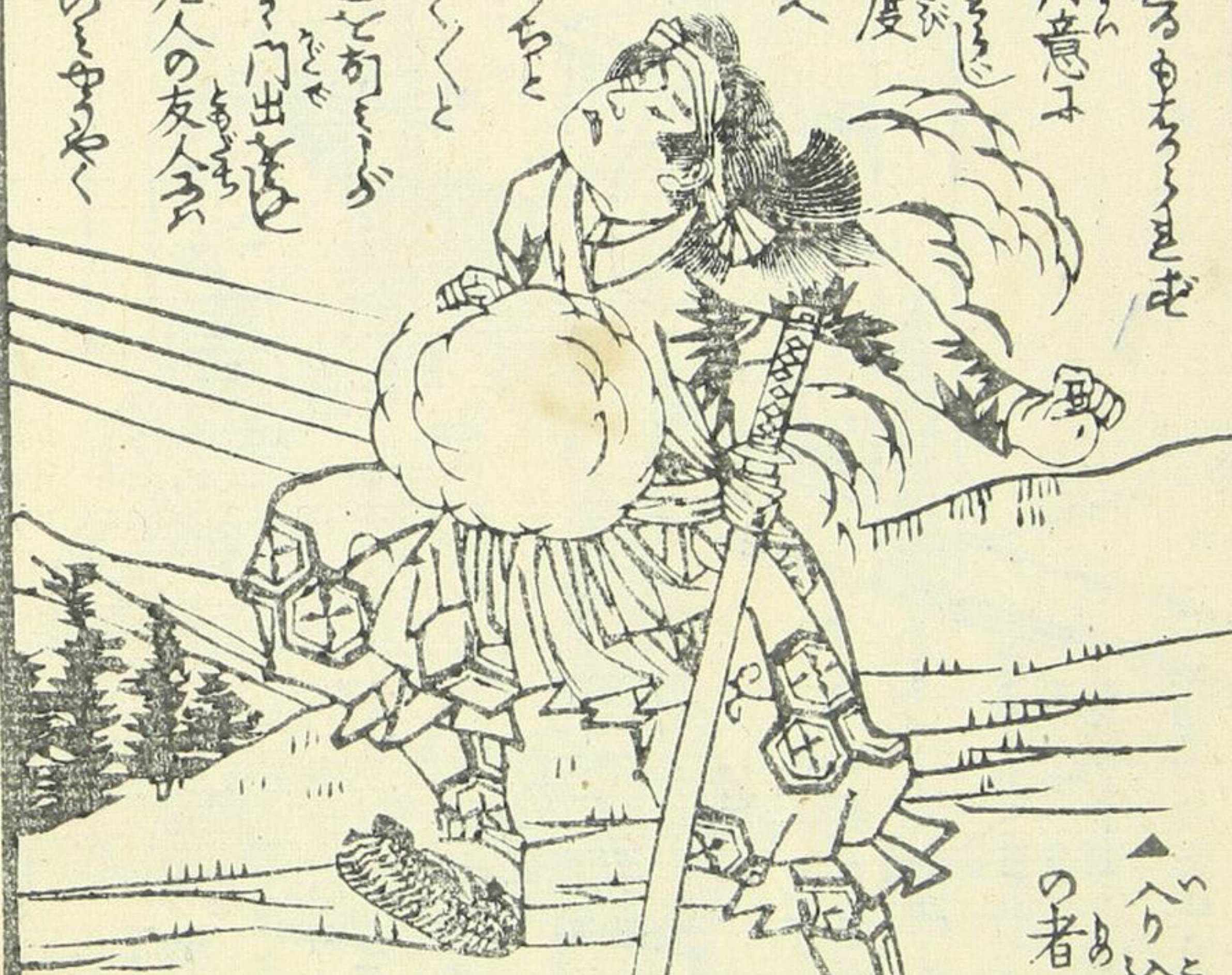
二二二二二二二





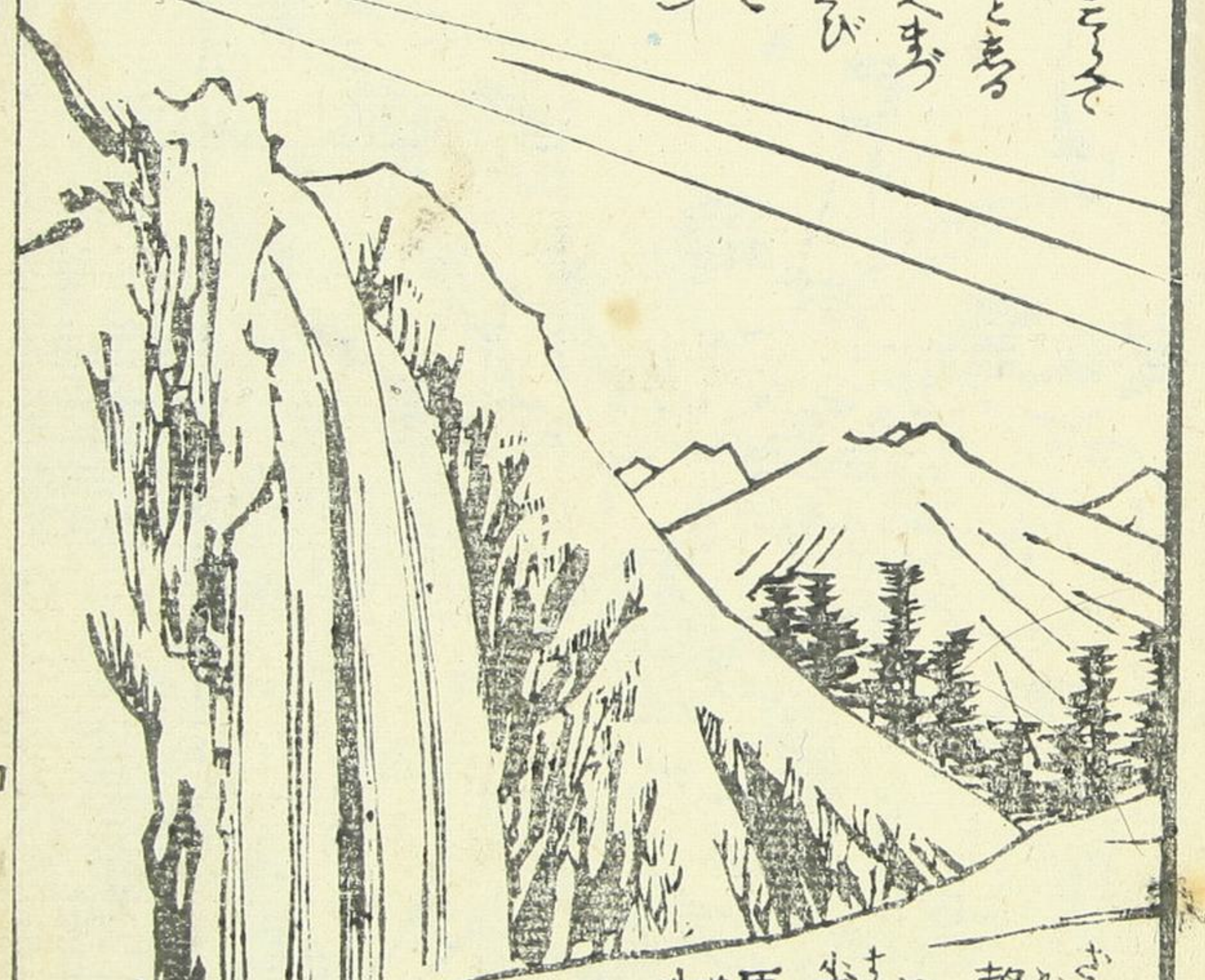


是非多く出陣の用意は  
 かり親父へさかすまじ  
 をまかせ帯と一り一度  
 軍のかよせせし  
 うの再びと  
 ありふるよ百と  
 是此刀を父が下ろすと  
 らひも終らぬ早くと  
 責を母おやいらすと  
 父が厳した文そのま  
 途中で足らぬ九人の友人  
 かくは休泊を茶とのちや



へりたもの外  
 の者へ逃のれ残じ  
 倉松と外  
 三人を憐  
 五月八日  
 薩州山の  
 斥候と引  
 賊へ肥後

八代を善一病氣とて  
 西々の本陣らうと来ると  
 人が隊とありそある  
 安心一西々先生お  
 逢しうとものか  
 船近所まき  
 ち敵の味方  
 流き玉ふらう左の  
 乳のへんり横  
 ふうちちと九死  
 一生を川おろの  
 賊の病院  
 ち官軍



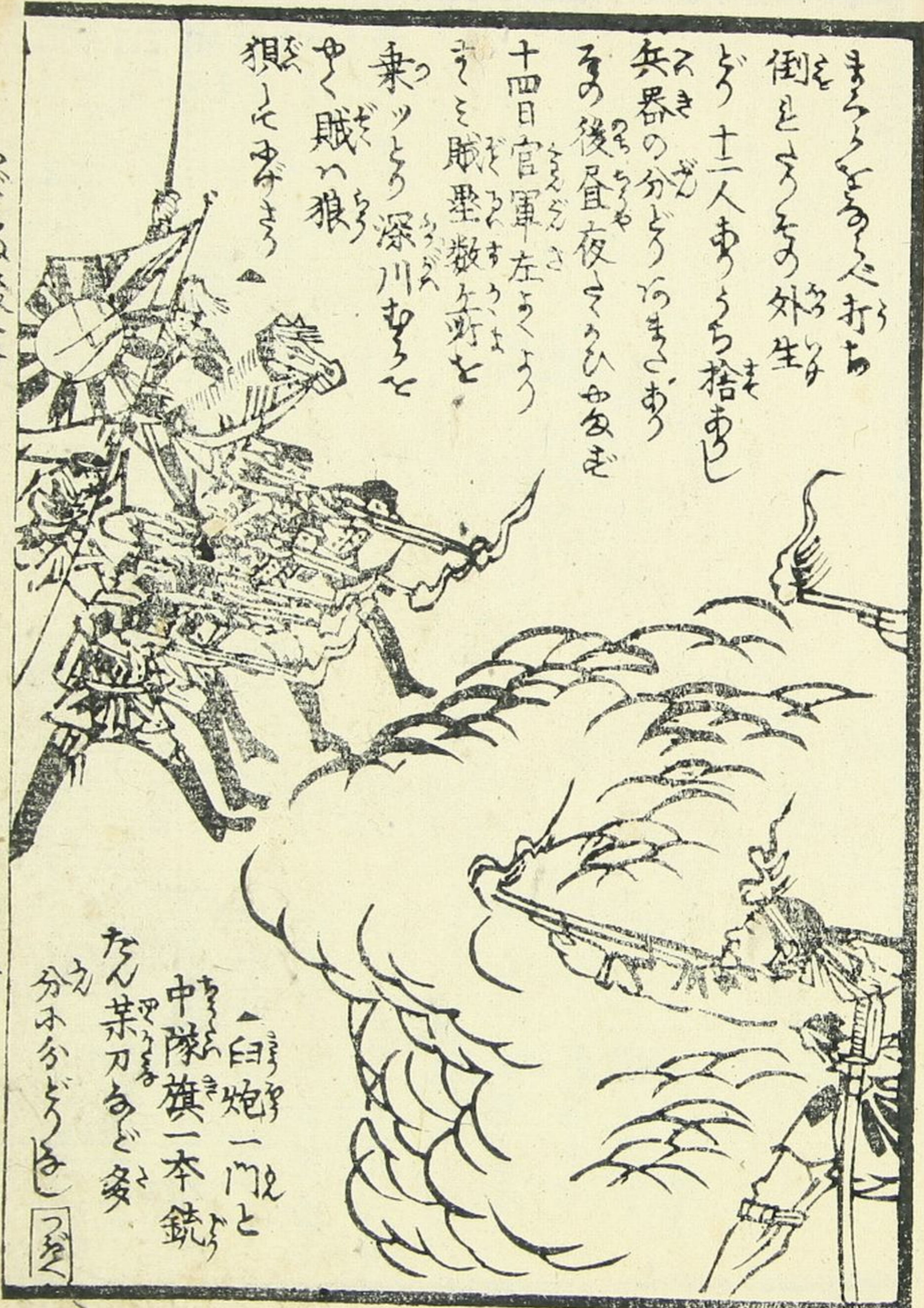
かのまを尾  
 撃との  
 尖ぐ官  
 軍の苦  
 戦多し  
 首尾と  
 引あが  
 さら



つぎ同十日の賊が  
 水俣来り乱ざりふを  
 らた烈しき官軍ハ  
 先とて思しと勇戦  
 りて彼ら不意と  
 多き打つてけと筒  
 きた揃てらち出ま賊  
 軍の隊長もきた不  
 きに大山源之助も  
 をあて烈しく下知  
 るせども何ん  
 のりとなるべき  
 大山より数人

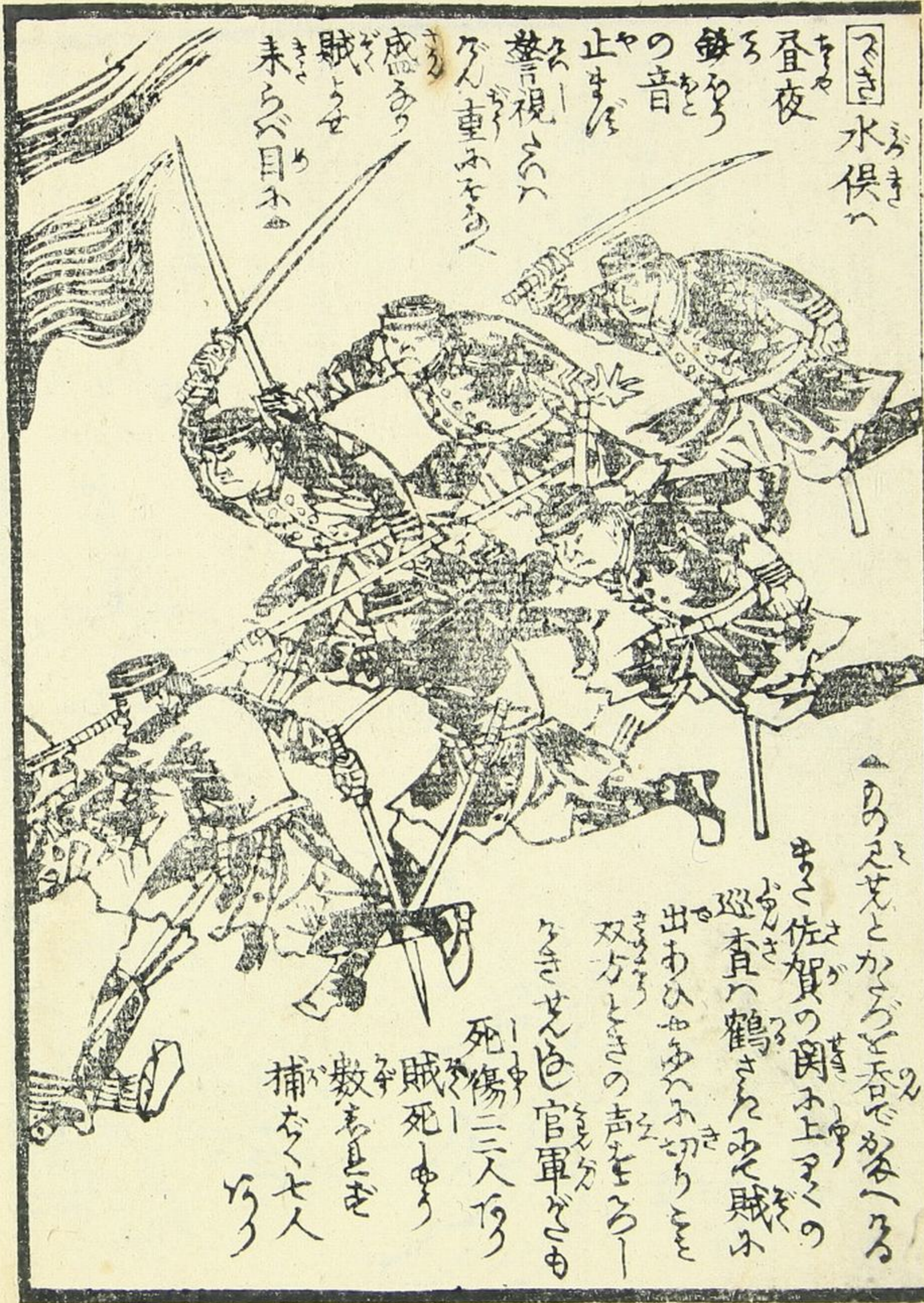


まらんとあつて打ち  
 倒すとすその外生  
 たり十二人ありち捨あり  
 兵器の分どりあまあり  
 その後昼夜さうひあま  
 十四日官軍左より  
 来て賊壘敷を野と  
 乗つとり深川むと  
 や賊の狼  
 狼してあま



白砲一門と  
 中隊旗一本銃  
 たん某刀あど多  
 分小分どり





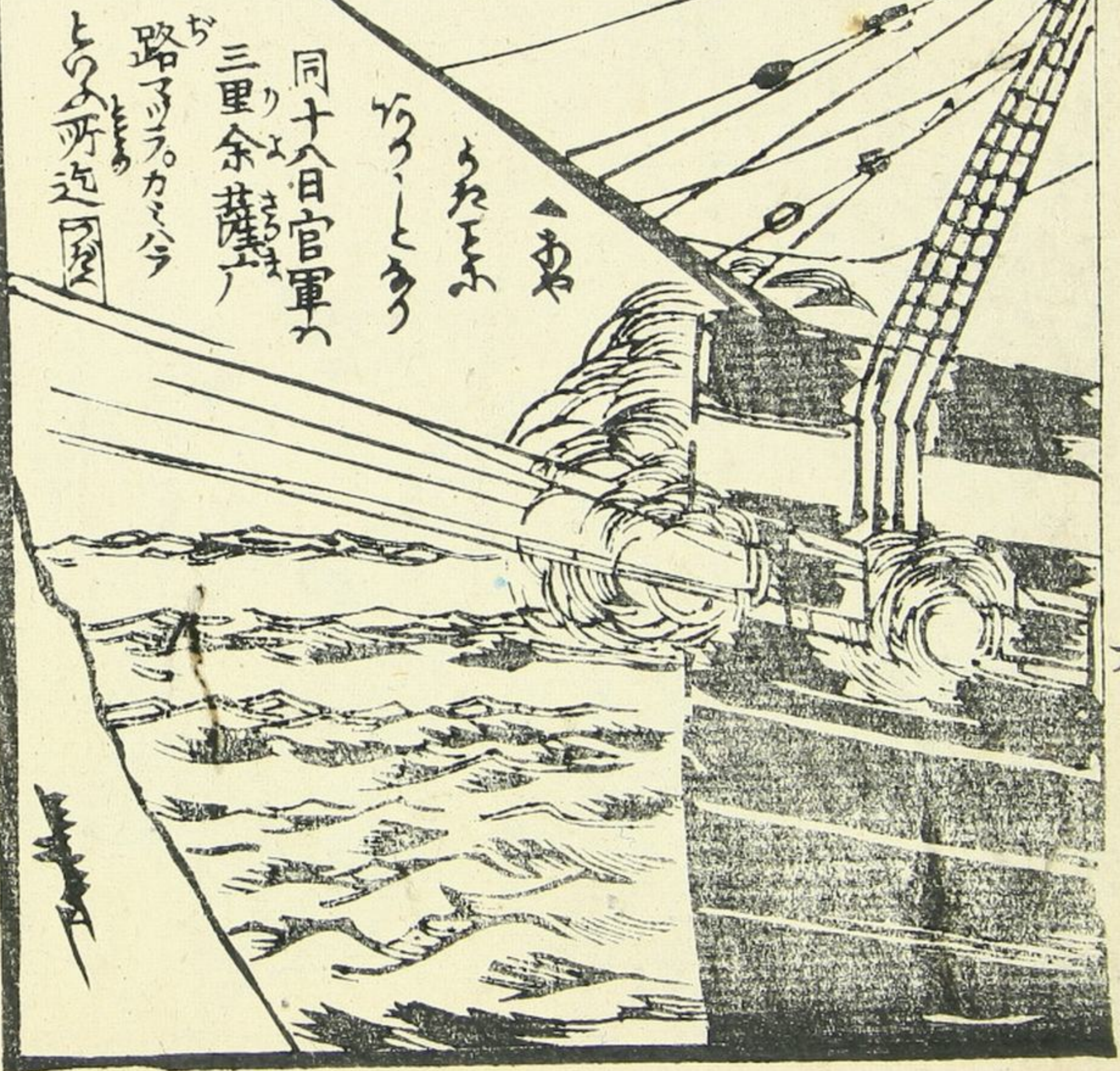
夕夜 水俣  
 鈴の音 止まらぬ  
 警視 せん  
 せん 重み  
 盛み 賊と  
 未ら 目  
 未ら 目

のりえとかがと香をかへる  
 まさ 佐賀の関の上まくの  
 巡査 鶴さんあて賊小  
 出わひやあふ切りこそ  
 双方とまきの声をさるー  
 死傷 二三人  
 賊死 十  
 捕 七人  
 死傷 二三人  
 賊死 十  
 捕 七人



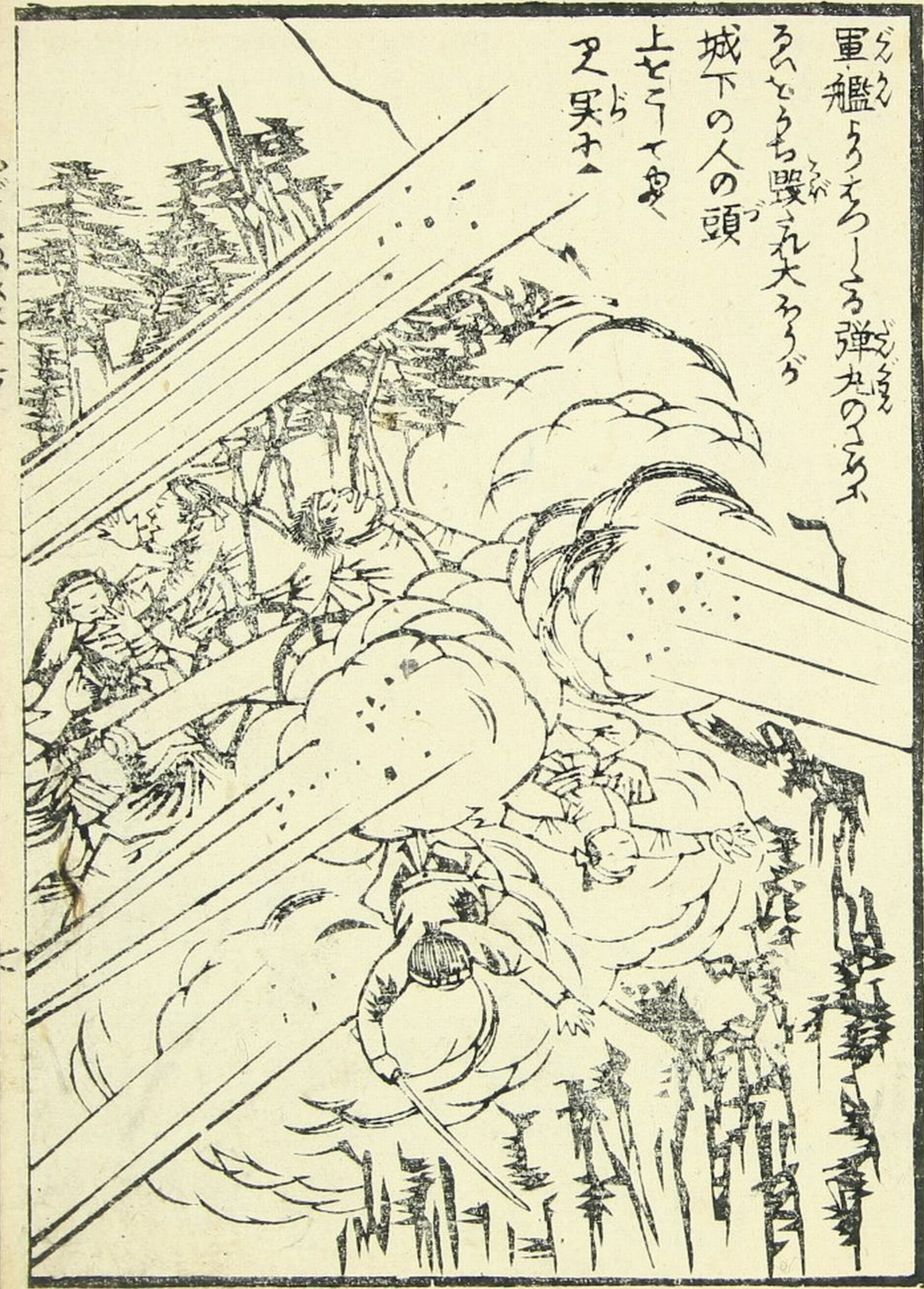
後三冊

又賊へ大砲へおきて  
引あつ五月十日ハ  
唐見島旧城上三丁  
ふたなる大明山賊ヲ  
大砲三門を引あつて  
西田山と上の山の官  
軍おとす一砲のせり  
合とすあつ又軍艦ハ  
旧城よりひびの海上へ  
碇泊してあつて大明  
山ふきや大砲をよこす  
賊はなすち敗走して  
戦ひをやあつてさうぬ



同十八日官軍ハ  
三里余薩ア  
路マツラカミナ  
との所迄

軍艦よりあつて弾丸のこぼる  
るをもち毀れ大あつて  
城下の人の頭  
上をこつて  
又冥ナ

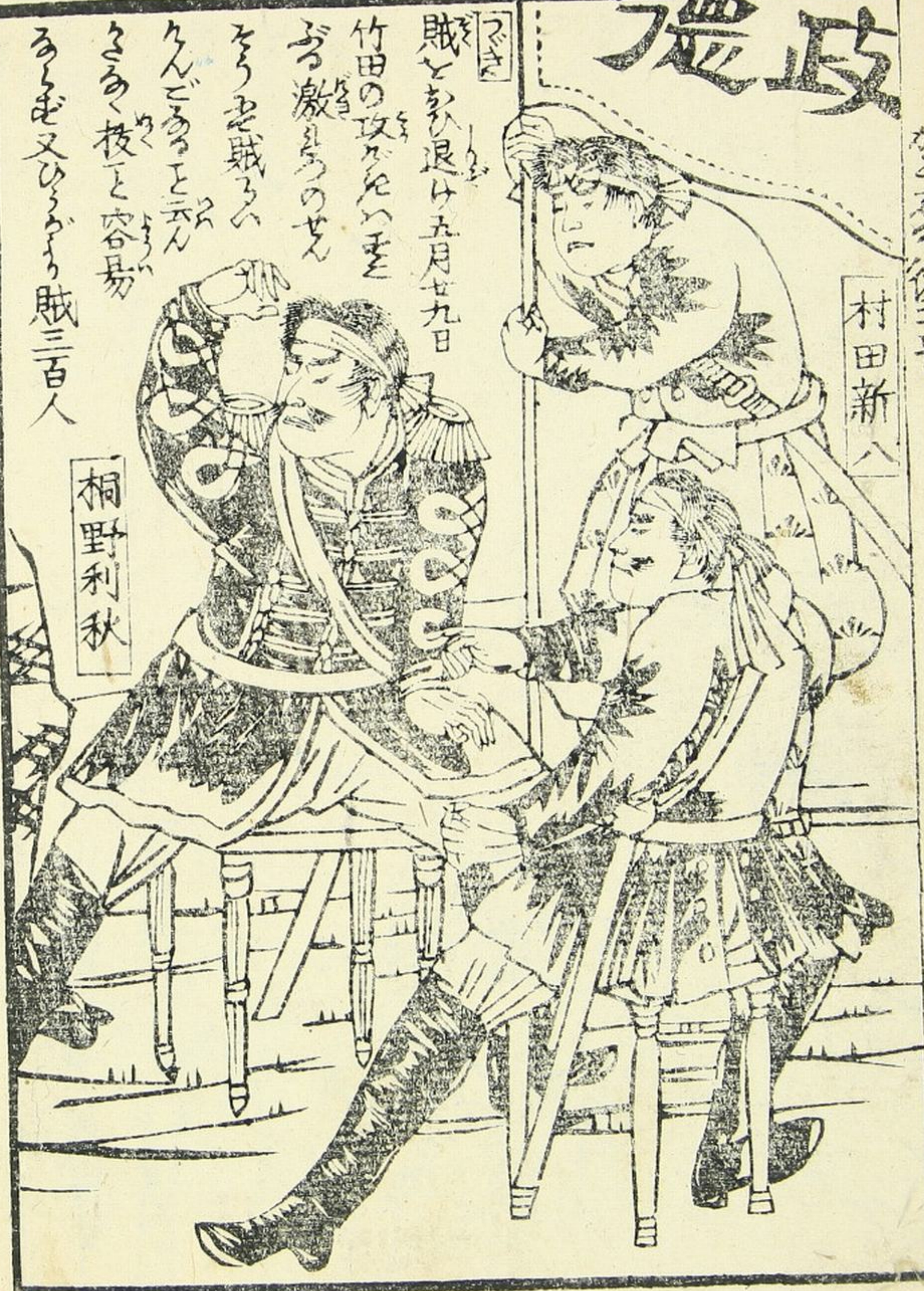




# 政 略

カノミヤノ後三号

村田新八



賊と引退け五月廿九日  
竹田の攻めをいせ  
ぶ激怒のせ  
そう忠賊の  
くんであると云ん  
さあ技と容易  
るんぞ又ひらがる賊三百人

桐野利秋



向ふやうき人  
陸軍海軍  
巡査兵とて手  
當は又桐野村  
田別府らの官さたしめてあたりふ  
兵とつり軍事の急りある周せん  
ろをといふ又警視とい神堤り  
両路ふらると竹田城下  
十丁むくの所まで  
進むるは賊の  
三ヶ所とある王  
来の官軍と

別府新助

逸昇郎太

カノミヤノ後三号







